

私立 大谷大学 私立 大谷大学短期大学部

取組名称 学生のニーズや適性に応じた総合的な就職支援体制の強化

取組担当者 学生支援部 キャリアセンター課長 禿 義裕

1. 本学の概要

大谷大学は、1665(寛文5)年、京都・東六条に開創された東本願寺の学寮をその前身としており、その後、幾たびかの変遷を経て、1901(明治34)年、学制に根本的改革を加えた近代的な大学として東京・巣鴨の地に開学した。2009(平成21)年5月1日現在の大谷大学は、文学部に真宗学科、仏教学科、哲学科、社会学科、歴史学科、文学科、国際文化学科、人文情報学科、教育・心理学科の9学科を持ち、計3,500名の学生が学んでいる。併設の大谷大学短期大学部は、仏教科、文化学科(2009(平成21)年4月学生募集停止)、幼児教育保育科の3学科より成り、計266名の学生が学んでいる。

初代学長・清沢満之は、その開学式典に際して「本学は他の学校とは異なりまして宗教学校なること、殊に仏教の中において浄土真宗の学場であります。」と述べている。この言葉の意味は、現在もなお受け継がれ、本学は独自の歩みを重ねている。殊に、戦後多くの大学が総合大学化してゆく中で、かたくなとも言えるほどに文学部だけの単科大学であることを守り続けてきたが、それは本学が建学の理念としてきた「自己の信念の確立」の実現を問いつける時、大学としては小規模であることに有効性を見てきた先人たちの選択であった。親鸞の仏教精神に基づき、“人材”ではなく“人物”の育成を目標とする学び「人間学」を教育・研究の根幹とし、小規模ながらも広く一般社会へ開かれた大学へと発展を続けている。

2. 本取組の概要

本取組は、卒業時点の就職のみならず、豊かな人間形成と人生設計に資することを目的に、学士力の涵養を図り、学生のニーズや適性に応じた適切な就職支援が行える体制を整備・強化するものである。

具体的な取組については次のとおりである。

①低学年からのキャリア形成支援により学士力の涵養を目指し、幅広い学修を促すために課外講座の充実

を図る。

- ②就職担当部署と指導教員及び保護者と一体となった支援体制を構築する。
- ③厳しい就職環境へ対応するため、専属の担当者を置き、企業訪問の強化と個別相談体制の充実を図る。
- ④上記②、③の目的を達成し十分な成果を上げるため、学生の就職活動の進捗状況に応じた適切な支援やタイムリーな求人情報の提供が可能な就職支援システムを新たに導入する。
- ⑤在学生満足度調査の活用やアセスメント(外部評価)を実施し、教育目標の達成度を計るためにアウトカム評価について検証する。

以上が、取組の概要であるが、本年度は、個々の学生に応じた適切な就職支援と学士力の涵養を目指すため、新たに導入する就職支援システムを活用し、学生の就職活動状況の的確な把握とタイムリーな求人情報の提供を行い、就職担当部署、指導教員及び保護者とが協力してより適切な就職支援を行う体制を整備することに主眼を置く。また、学士力の涵養を図るために、課外講座を充実させるとともに、アウトカム評価の検証に向けたアセスメント(外部評価)を導入する。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

市場の論理、IT革命等により、グローバル化社会が急速に進展する中、大不況も伴って産業構造も大きく変化し、雇用環境は、ますます不透明になり、学生の就職に対する不安は増大している。厳しい社会状況の中で、学生自らが社会と向き合う力や、職業社会へと自ら踏み出す力等学生のキャリア形成が益々重要となっている。

本取組は、単に卒業時点の就職のみならず、低学年からのキャリア形成支援により、学士力の涵養を目指し、豊かな人間形成と人生設計に資することを目的としている。また、この厳しい雇用環境に対応するために、学生の適性やニーズに応じた適切な就職支援体制

を整備し、学生の成長に合わせた総合的な学生支援を行うものである。

(2) 達成目標

学生一人ひとりに対する適切な就職支援の保障と幅広い学士力の涵養を実現するため、第一学年からのステップアップ式のキャリア形成関連事業を確立させる。また、本学の自己点検・評価委員会が行う在学生満足度調査や、アセスメント（外部評価）を実施することにより、学生満足度等のアウトプット評価の改善とアウトカム評価について検証する。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) キャリア形成支援の推進

(i) 学士力の涵養を目指すための課外講座の開講

低学年からのキャリア形成支援により学士力の涵養を目指し、幅広い学修を促すために課外講座や各種資格取得講座の充実を図る。本年度の取組として、「ビジネスマナー講習（全学年対象）」、「マイクロソフトオフィス対策講習（全学年対象）」を実施する。実施に当たっては、学生負担を軽減するため、受講料の半額を大学が負担する。

また、補助事業とは別に、本年度、新たに課外講座として開講する「キャリアマインド形成セミナー（第1学年対象）」、「キャリアアップセミナー（第2学年以上対象）」や各種の資格取得講習も併せて開講する。

(ii) 社会人基礎力を測るためのアセスメント実施

社会人基礎力について調査を行い、キャリア形成支援を行う際の基礎データとして活用する。また、調査結果を本学におけるキャリア教育の取組の改善に反映し、学生の学士力の向上につなげる。

本年度の取組として、社会人基礎力についてのアセスメントツールである「自己プログレスレポート」の実施を、正課授業として開講しているキャリア形成支援科目の「キャリアデザイン概論」と「キャリアデザインリレー講義」の授業で行う。



写真1 保護者対象就職説明会

(2) 就職支援体制の整備・強化

(i) 就職担当部署と指導教員及び保護者との連携の強化

厳しい就職環境下での就職支援においては、就職活動を途中で諦めさせないようタイムリーな情報を提供するなど、適切な支援を行うことが肝要となる。そのためには、学生の就職活動の進捗状況を就職担当部署が常に把握していることが必要である。しかし、学生と直接連絡を取ることは、そう容易なことではないため、学生の指導教員及び保護者との連携を強化する必要が生じてきた。

教員とは、後述の委員会を通しての連携を図るが、特に保護者との連携を強化させるため、「保護者のための就職ガイドブック」を作成し、9月に保護者を対象に「就職説明会」を開催する。

その主な内容は、次のとおりである。

- ①現在の就職活動の実態
- ②就職活動を成功させるための準備やポイント
- ③経済情勢悪化に伴う就職環境の現状
- ④保護者から学生へのサポートの仕方

このような取組を通して、就職活動に対する知識や就職状況全般についての理解を得、大学と保護者とが情報を共有しながら、より適切な就職支援が行える体制を目指すものである。

(ii) 企業訪問の強化

厳しい経済情勢の中で求人確保を図るため、専属の担当者を一名雇用し、近畿圏だけでなく、関東圏や中部圏など採用実績のある企業を中心に、積極的に企業訪問を行う。企業訪問を積極的に行うことにより、求人確保とともに、企業の求める人材や人事制度等企业情報を収集し、学生とのマッチングを行う。それによって、就職率の向上やミスマッチによる早期退職を減らすことが期待される。



写真2 保護者用パンフレット

(iii) 個別相談体制の強化

学生の就職支援を行う中で、「なぜ働くのか」、「何がしたいのか」という勤労観や職業観が希薄なまま、就職活動を行い、途中で挫折している学生が見受けられるが、厳しい就職環境下においては、その事が顕著に現われてくる。そのような学生に対し、キャリア意識の観点から適切なアドバイスを行える体制を整える必要があった。

今回の取組で、CDA資格を持ったキャリアアドバイザー2名を外委託し、個別相談体制の強化を図る。



写真3 個別相談の強化

(iv) 就職支援の拡充

今回、学内施設の転用により、グループディスカッション・集団面接指導が行える部屋を確保した。それに伴い、モニターテレビ・DVDプレイヤーを設置し、就職採用試験対策に活用する。このように、就職支援方法を充実・強化することにより適切な支援や様々な学生のニーズに応える。

(v) 就職支援システムの導入

(現状)

本学では、第3学年の前期に卒業後の希望進路を記入した「進路登録カード」を提出させ、個々の学生の相談内容、活動状況、採用試験の進捗状況を把握しながら、必要な支援を行っている。一方、大学に届く求人情報は、学内のポータルサイト上で紹介している。

しかし、学生のパーソナル情報がデータ化されず、提出された希望進路の内容が3学年から4学年と就職活動を行う中で変わる場合、相談に訪れない学生の最新の希望（業種、職種、勤務地）を把握することが困難であった。また、学生の活動の進捗状況を把握するため、4学年の6月から順次電話で確認し、未内定の学生に対し必要な支援や大学に届いている求人情報を紹介しているが、学生本人との連絡を取ることが難しい状況にある。

(新たなシステムの導入)

本取組では、学生の就職活動の進捗状況に応じた適切な支援やタイムリーな求人情報・セミナー情報を提供できる新たな就職支援システムを導入する。

具体的には、

- ①学生の進路登録カードをデータ化し、学生のウェブ上からの登録・修正を可能にする。
- ②学生の就職活動状況、相談内容及び本番での就職活動の進捗状況をパソコン上で管理する。
- ③学生の最新のパーソナル情報に基づき、必要な求人情報やセミナー情報をプッシュ型で送信するとともに、学生の活動状況・採用試験の進捗状況、内定状況をアンケート形式で把握できるようにする。
- ④求人票をネットから直接取り込むことを可能なシステムとする。

以上が新システムの機能であるが、システムを活用することで、学生の進捗管理を容易に行い、タイムリーな支援を行う。そのことにより、キャリアセンターと学生の間を縮め、就職活動を途中で諦めさせないような支援を実現させること。また、キャリアセンターの中で、学生情報の共有化を図ることでガイダンスや相談業務などキャリアセンターの本来業務にも力を入れることができると期待している。

(3) 取組の実施体制

本取組は、学長を委員長として組織されている学生支援委員会を中心に実施される。具体的には、学生支援委員会の統括のもと、学生部長が部会長を務めるキャリア部会を中心に、指導教員と学生支援部キャリアセンターとが協力して行うものである。

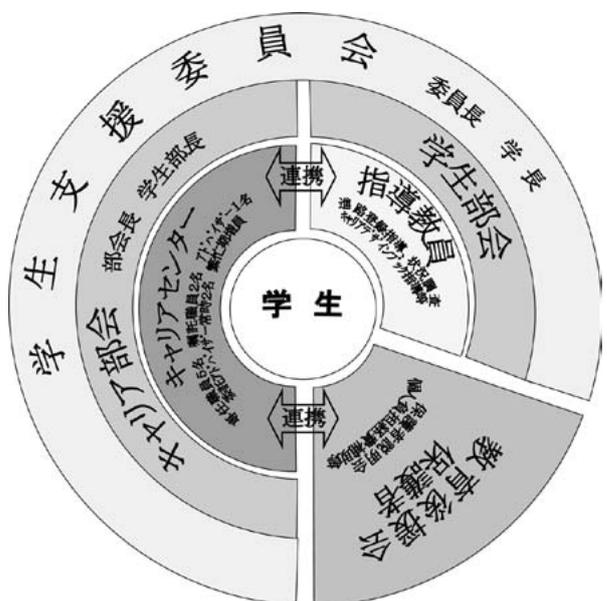


図1 学生支援体制図

5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組の評価体制・評価方法は、本学の内部質保証システム（図2）により行われる。「学園整備総合企画委員会」が策定した中・長期構想の基に「学生支援委員会」が取り組んだ本補助事業について、「自己点検・評価委員会」が行う在学生満足度調査を活用し、さらに「学生支援委員会」の付託によるアセスメント（外部評価）を実施する。それらの実施結果を「自己点検・評価委員会」の「学生生活・学生受入部会」が点検・評価し、そこで明らかになった課題について学士課程の改革・改善につなげていくのである。この取組は、3年間の補助事業として申請したものであり、目的、達成目標から求められる成果を毎年検証しながら、学生のニーズや適性に応じた総合的な学生支援体制の整備・強化を目指す。

6. 本取組の実施計画等

本取組の目的を達成するため、本年度は、新たに導入する就職支援システムを活用し、学生の就職活動状況の的確な把握とタイムリーな求人情報の提供を行い、就職担当部署、指導教員及び保護者とが協力してより適切な就職支援が行える体制を整備する。また、学士力の涵養を図るために、課外講座を充実させるとともに、アウトカム評価の検証に向けたアセスメント（外部評価）を導入する。

具体的な取組については、下記のようなスケジュールで実施する。

- (1) 9月 保護者対象「就職説明会」の開催
- (2) 9月 就職支援の拡充・強化
- (3) 9月～10月 社会人基礎力アセスメントの実施
- (4) 9月～3月 キャリア支援講習の開催・実施
- (5) 9月～3月 企業訪問の実施
- (6) 9月～3月 キャリアアドバイザーによる個別相談の実施
- (7) 10月～12月 就職支援システムの導入

以上が本年度の取組スケジュールであるが、上記計画を実施することにより、事業の確実な導入と定着を図り、次年度以降に充実、強化、展開させていくための基盤を作り上げていく。

【内部質保証システム概念図】

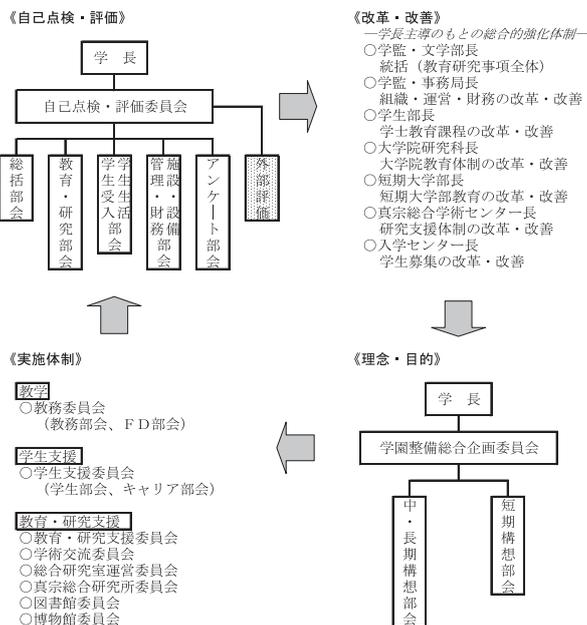


図2 評価体制図